

違いが
分かる!

レベルも求める作品も同じではない!

文学賞 傾向と対策



日本全国には大小様々な小説公募があり、年間 120 件以上も募集されています。プロの登竜門と言えるものにも限定しても 30 件以上あります。

では、これから小説を書こうという人は、そのどれに応募したらいいでしょうか。

締切と枚数、ジャンルは、募集要項やタイトルを見れば判断できます。しかし、それ以上の違い——主催者がどんな作品を求めているか、となると、具体的には分かりません。分かるのは、「粹にとらわれない」「有為な新人」の「意欲作」といった漠としたことだけです。

さらに、どの賞のほうプロに直結しているか、どちらの出版社のほう新人を育成しているかということは、この業界にいない人には分かりにくいでしょう。

そこで今回は、文学賞に通じた二名の協力を得て、ないようである文学賞の「傾向と対策」を探っていきます。※インタビューの回答には、ある程度の独断があることはご承知おきください。

イラスト フクイヒロシ

公募文学賞 棲み分けMAP

この図は、月刊公募ガイドに掲載された公募文学賞のうち、定期開催のもの、応募資格が限定されていないものをピックアップし、分類したものです。分類はあくまでも全体像を概観するためのものであり、個々の賞の差を決定づけるものではありませんが、ご自分が応募する賞がだいたいどのあたりに位置するか目安にしてください。

文学研究も
純文系

■その他の純文学系

- 6) 三田文学新人賞（慶應義塾大学／三田文学会）
- 7) 江古田文学賞（江古田文学会）
- 8) 太宰治賞（筑摩書房／三鷹市）

芥川賞
候補作！

■文芸誌系純文学

- 1) 文学界新人賞（文藝春秋）
- 2) 新潮新人賞（新潮社）
- 3) 群像新人文学賞（講談社）
- 4) 文藝賞（河出書房新社）
- 5) すばる文学賞（集英社）

相対的
難度

文学性

腕試しに
いいかも

■地方文芸

- 20) 九州さが大衆文学賞（九州さが大衆文学賞委員会）
- 21) さきがけ文学賞（さきがけ文学賞渡辺喜恵子基金）
- 22) 北日本文学賞（北日本新聞社）
- 23) 室生犀星文学賞（読売新聞北陸支社）
- 24) 彩の国・埼玉りそな銀行 埼玉文学賞（埼玉新聞社）
- 25) ふくい新進文学賞（日刊県民福井／中日新聞ほか）
- 26) 中国短編文学賞（中国新聞社）
- 27) 南日本文学賞（南日本新聞社）
- 28) 立川文学賞（立川文学賞実行委員会）
- 29) ゆきのまち幻想文学賞（ゆきのまち通信）

賞金稼ぎに
徹するか

■自治体文学

- 9) 坊っちゃん文学賞（松山市／坊っちゃん文学賞実行委員会）
- 10) ちよだ文学賞（東京都千代田区）
- 11) やまなし文学賞 小説部門（やまなし文学賞実行委員会）
- 12) 長塚節文学賞（常総市／節のふるさと文化づくり協議会）
- 13) 岡山県「内田百閒文学賞」（岡山県／岡山県郷土文化財団）
- 14) 北区内田康夫ミステリー文学賞（東京都北区）
- 15) 湯河原文学賞（湯河原町ほか）
- 16) 伊豆文学賞（静岡県／静岡県教育委員会ほか）
- 17) 木山捷平短編小説賞（笠岡市／笠岡市教育委員会ほか）
- 18) 舟橋聖一顕彰青年文学賞（彦根市／彦根市教育委員会）
- 19) 織田作之助青春賞（織田作之助賞実行委員会）

■その他

- 30) フェリシモ文学賞（フェリシモ）
- 31) 銀華文学賞（アジア文化社「文芸思潮」）
- 32) 労働者文学賞（労働者文学会）
- 33) 部落解放文学賞（部落解放文学賞実行委員会）
- 34) 農民文学賞（日本農民文学会）

（注）この図では機械的に四分割していますが、どちらとも言えない（中間ぐらい）という賞もあります。また、難度はあくまでも相対的なもので、自治体文学や地方文芸、ライトノベルが易しいという意味ではありません。

違いが分かる!

文学賞 傾向と対策

レベルも求める作品も同じではない!

本格と広義のミステリー

文学性もかなりある!

■ミステリー

- 52) 江戸川乱歩賞 (日本推理作家協会)
- 53) 鮎川哲也賞 (東京創元社)
- 54) ミステリーズ! 新人賞 (東京創元社)
- 55) 小説推理新人賞 (双葉社)
- 56) 横溝正史ミステリ大賞 (角川書店)
- 57) 『このミステリーがすごい!』大賞 (宝島社)
- 58) 日本ミステリー文学大賞新人賞 (光文文化財団)
- 59) アガサ・クリスティー賞 (早川書房/早川清文学振興財団)
- 60) 島田荘司選 ばらのまち福山 ミステリー文学新人賞 (福山市ほか)

■ホラー

- 61) 日本ホラー小説大賞 (角川書店)
- 62) 「幽」怪談文学賞 (メディアファクトリーほか)

■時代小説

- 63) 朝日時代小説大賞 (朝日新聞出版)
- 64) 歴史群像大賞 (学研パブリッシング)

■エンターテインメント全般対象

- 35) オール讀物新人賞 (文藝春秋)
- 36) 小説現代長編新人賞 (講談社)
- 37) 小説すばる新人賞 (集英社)
- 38) 新潮エンターテインメント大賞 (新潮社/フジテレビ)
- 39) 野性時代フロンティア文学賞 (フジテレビジョン/角川書店)
- 40) 小学館文庫小説賞 (小学館)
- 41) 松本清張賞 (日本文学振興会)
- 42) 角川春樹小説賞 (角川春樹事務所)
- 43) 小説宝石新人賞 (光文社)
- 44) ポプラ社小説新人賞 (ポプラ社)
- 45) ダ・ヴィンチ文学賞 (メディアファクトリー)
- 46) ゴールデン・エレファント賞 (「ゴールデン・エレファント賞」運営委員会)

■その他のエンターテインメント小説

- 47) 日本ファンタジーノベル大賞 (読売新聞社/清水建設)
- 48) 日本ラブストーリー大賞 (宝島社)
- 49) 城山三郎経済小説大賞 (ダイヤモンド社)
- 50) 女による女のための R-18 文学賞 (新潮社)
- 51) 創元 SF 短編賞 (東京創元社)

大衆性

■ライトノベル

シルバー世代は無理かも

- 75) スーパーダッシュ小説新人賞 (集英社)
- 76) 小学館ライトノベル大賞 ガガガ文庫部門 (小学館)
- 77) 小学館ライトノベル大賞 ルルル文庫部門 (小学館)
- 78) GA 文庫大賞 (ソフトバンククリエイティブ)
- 79) 講談社ラノベ文庫新人賞 (講談社)
- 80) BOX-AiR 新人賞 (講談社 BOX)
- 81) 角川ビーンズ小説大賞 (角川書店ビーンズ文庫編集部)
- 82) 幻狼大賞 作品募集 小説部門 (幻冬舎コミックス)
- 83) 『このライトノベルがすごい!』大賞 (宝島社)
- 84) C★NOVELS 大賞 (C★NOVELS ファンタジア編集部)
- 85) HJ 文庫大賞 (ホビージャパン)
- 86) ピュアフル小説賞 (ポプラ社)

- 65) 電撃小説大賞 (アスキー・メディアワークス)
- 66) B-PRINCE 文庫 新人大賞 小説部門 (アスキー・メディアワークス)
- 67) スニーカー大賞 (角川書店)
- 68) ファンタジア大賞 (富士見書房)
- 69) スクウェア・エニックスライトノベル大賞 (スクウェア・エニックス)
- 70) エンターブレインえんため大賞 小説部門 (エンターブレイン)
- 71) エンターブレインえんため大賞 ガールズノベルズ部門 (エンターブレイン)
- 72) 集英社ノベル大賞 (集英社)
- 73) 集英社ロマン大賞 (集英社)
- 74) 集英社みらい文庫大賞 (集英社)

■コミック誌・低年齢層向け小説

- 87) ウィングス小説大賞 (新書館)
- 88) ジャンプ小説新人賞 (集英社)

一ロメモ

純文学の賞にライトノベルで応募しても受賞はまず無理ですが、逆も真なりで、純文学ではライトノベルの賞は100%獲れないと言っている。純文学とライトノベルは対極です。しかし、大人向けのエンターテインメント作品の中には深い文学性を有するものもあり、そうした作品が純文学の賞を受賞することは稀にあります。

相対的難度

INTERVIEW

若桜木虔先生インタビュー

エンターテインメント系文学賞 その差異と特徴

「斬新な」「粋にとらわれない」「有為な新人」……応募要項に書かれている言葉はどれも似たり寄ったりで、どこが違うのか、それとも同じなのか、皆目見当もつきません。母体となる小説誌や過去の受賞作を読んでも、各賞の違いは今ひとつはつきりしません。そこで今回は、若桜木虔先生にインタビューし、各賞の傾向と対策についてお聞きしました。

求められるのはオリジナリティー、似たものは束にして落とされる

——エンターテインメント系の賞にもいろいろあり、どの賞に応募すればいいか迷います。賞の傾向を探るにはどうすればいいでしょうか。

過去の受賞作を徹底的に読み込むことです。それもただ読むのではなく、分祈眼を持って読むことです。よく「傾向と対策を調べても意味がない」と言いますが、それはやり方が悪いからです。ほとんどの人は、傾向と対策というと、似たようなものを書いてしまう。最悪なのは、前年の受賞作のテーマが「○○」だったから、その方向でと考えてしまう。——それだと似たような作品になってしまいますね。

そうですね。それではだめ。過去の受賞作を読むのは、それまでとは違う作品を書くためなんです。そこを履き違えてい

る人が多い。

——この賞は純文学系だとか、本格推理だという分類はいいですが、題材とか設定が似てはいけませんね。

作品自体の出来がいくら良くても、今話題の作品や有名な作品と似ていれば、それだけでも減点です。新人賞では、今までにないというオリジナリティーを第一に見ますので、どこかで読んだことがあるという既視感を覚えさせる作品は不利なのです。

——確かに、選考委員が「またか」と思いうような設定ではダメですね。

主催者は、ほかの人とは違うものを書ける人を求めています。だから、どの賞にも、似たような作品は束にして落とすという傾向があります。

——他の応募者とどれだけ違いを出すか

若桜木虔 評

エンターテインメント系文学賞 傾向と対策

エンターテインメント系の文学賞を30タイトル選び、若桜木虔先生に寸評をお願いしました。なお、表中のABCの記号は難易度ではなく、プロへの登龍門度を表します。

- A 人気作家の登龍門
- B 登龍門だが、Aほどではない
- C 有名なプロはあまり出ていない

A 小説すばる新人賞

受賞者から人気作家を輩出しているが、けっこう年度によって受賞作のレベルが乱高下する。傾向として、傑作と駄作が一年おきで、受賞作が駄作だった翌年は「この程度なら書ける」と思うのか、倍率がハネ上がる。



B 新潮エンターテインメント大賞

選考委員が毎年、交替するうえに、一人の選考委員による選考なので極めて授賞傾向が読みにくい。どちらかというところライトノベルっぽい受賞作が多いので、成人向きとライトノベルの中間路線を狙う人向き。



C 角川春樹小説賞

あまり脚光を浴びないせいか、予選通過作のレベルを見ると、他の新人賞よりも選考基準がやや甘い。何次予選まで行けるか実力を試したい人向き。運が良ければ大賞まで届く。その後は受賞者の営業努力次第。



A 小学館文庫小説賞

「文庫」と銘打っているが、受賞作は四六版ハードカバーで刊行される。受賞者の生き残り率も高いし、応募規定枚数も多いから、大長編を書いて世に問いたい実力者向き。時代劇にレベルの高い受賞作が多い。



C オール読物新人賞

受賞しても、単行本を出してもらえない(他の短編賞だと、書き下ろしや雑誌掲載を併せて単行本にしてもらえる)ので、概して受賞作や最終候補作のレベルは高くない。何次予選まで行けるか実力を試したい人向き。



? 小説現代長編新人賞

時代劇ならA、それ以外ならC。時代劇の受賞作は息の長い作家が出ていて、松本清張賞受賞作の時代劇とほぼ同じレベル。授賞傾向も似ている。松本清張賞を狙って間に合わなかった場合の応募先に最適。



が勝負なんですね。

— そうです。だって、「日本ラブストーリー大賞」にラブストーリーを出しても入賞しないんだから。普通のラブストーリーだと、似たような作品は束にして落とすという原則に従って落選し、残るものはラブストーリーではない。

— もっとも恋愛の要素のない小説も少ないですが。

過去の受賞作を見ると、ラブストーリーの要素はスパイスで、メインはほかのところにあるような作品が多い。これは青春物にも言えることで、誰もが経験したことがある舞台設定の場合、よほど変わった要素を加えなければ新しさは感じられない。賞のタイトルにごまかされず、むしろ外すことが重要です。

— 「傾向と対策」ということでは、ほかに注意することはありますか。

— 選考委員の志向を探ることです。歴史物や軍事物に詳しい選考委員がいるからといって、迎合してそういったモチーフを持ち込む人がいますが、かえって粗が見えて墓穴を掘ります。

— 違う分野を狙う?

— そうです。選考委員が詳しくない分野を扱い、一般に知られていない知識や蘊蓄を盛り込めば、選考委員を唸らせやすくなります。実際、時代物でも現代物でもいいという賞で、時代考証の甘い時代小説が入賞したことがあります。時代



若桜木虔 (わかさき・けん) 昭和22年静岡県生まれ。NHK文化センター、読売文化センター(町田市)で小説講座の講師を務める。本誌では「若桜木虔の作家養成塾」を連載中。

小説の賞なら入賞は無理ですが、選考委員が時代小説専門の作家ではなかったため、時代考証の不備に気づかなかった。そういうこともあるんです。

— 選考委員の特徴はどのように調べればいいですか。

— まずは選考委員をネットで調べて、過去の作品や専門分野などを調べます。できれば、プロフィールや職歴まで調べ、どういう仕事を経てどんな知識を持っているかを推測する。もちろん調べても限界はありますが、何も調べないよりいいです。選考委員が元編集者の場合、迂闊に主人公の職業を編集者にしたら、「こんなこと、普通はあり得ない」と興ざめされる危険があります。人は、自分が詳しいことには手厳しいんですね。

C 野性時代フロンティア文学賞

角川春樹小説賞と同じく、あまり脚光を浴びないせいか、予選通過作のレベルを見ると、他の新人賞よりも選考基準が、やや甘い。何次予選まで行けるか実力を試したい人向き。



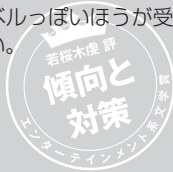
? 松本清張賞

時代劇ならA、それ以外のジャンルならC。横山秀夫を除き、時代劇以外のジャンルでは売れっ子が出ていない。時代劇ならば、直木賞への最短ルートとあって、実績のあるプロ作家も応募してくるから激戦。



C ポプラ社小説新人賞

歴史が浅いのと、「大賞」でなくなって賞金が減ったので、ハードルは低くなった。その分だけ、受賞者が受賞後に積極的に売り込みに動かないと、文壇に生き残りにくい。ややライトノベルっぽいほうが受賞しやすい。



C 小説宝石新人賞

オール讀物新人賞と同じく、受賞しても単行本を出してももらえないので、概して受賞作や最終候補作のレベルは高くない。何次予選まで行けるか実力を試したい人向き。ただし、オール讀物新人賞よりは雑誌掲載の機会が多い。



B 城山三郎経済小説大賞

経済ミステリー、それも、企業の内幕を克明に描いて、モデル企業がどこなのか、見当がつくくらいに詳しく書かないと、大賞には届かない。ぱりぱりの企業体験がないと、おそらく1次選考でハネられる。



B 日本ラブストーリー大賞

ラブストーリーと銘打ちながら、典型的なラブストーリーには受賞されない。かなり捻りを利かせて、「え? これラブストーリー?」と思わせるような意外性がないと大賞まで届かない。



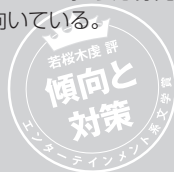
? ゴールデン・エレファント賞

歴史が浅いので、AかBかCかは、今後を見ないと何とも言えない。第1回は大賞が2本だったが、力量にかなりの差があった。受賞する選考側も、基準に迷って試行錯誤しているところかと思われる。



B/C ダ・ヴィンチ文学賞

BとCの中間。レベルは、ますます高いが、あまり脚光を浴びないのが損な新人賞。枚数も短いので、速筆で、書いては片端から応募していくようなアマチュアが狙う応募先としては向いている。



徹底的に研究すれば、ないようである各賞の差異と特徴が分かる！

——個別の賞の特徴についてお伺いしたいと思います。

「城山三郎経済小説大賞」は、ダイヤモンド社という会社の体質からいって企業の内幕が明らかに分かるようでないといえない。過去の受賞作も、どこの企業がモデルであるかがすぐ分かる。あの事件の話だなどという暴露話が入っていないと、優秀賞どまりです。それから、経済小説とはいえ、企業ミステリーである必要があります。

——「日本ファンタジーノベル大賞」はいかがですか。

博覧強記の荒俣宏氏を唸らせようとする、どうしてもレベルが高くなってしまうんでしょう。当然、受賞作は王道ファンタジーではなくります。実際、過去の受賞作を見ても、書かれていることは半端ではない専門知識に基づいた中国史物や軍事物、幽霊物であったり。結果、これがファンタジーに入るのだろうかと思うような作品が選ばれています。

これは「創元SF短編賞」にも共通します。選考委員はSFに精通しています。

生存率なら「鮎川哲也賞」と『このミステリーがすごい！』大賞

——ミステリー専門の賞か、それともミステリーも可という賞か迷ったときは？

書いた作品が本格推理か、それとも広義のミステリーなのかによります。トリ

から、前例のない科学的アイデアを盛り込み、人並み外れた知識や蘊蓄を盛り込まなければ、入賞できません。

——時代小説についてはどうですか。

「朝日時代小説大賞」は、信長、秀吉など誰もが知っている人物を主人公にするのと落とされます。受賞作品の傾向をみると、実在の人物でありながら一般的には誰も知らないような人物を主人公としています。地味でもいいから、いかにマイナーな人材を掘り起こしてスポットライトを当てられるかが鍵です。

「歴史群像大賞」は、選考委員が歴史の専門分野外であるため、チャンバラやアクションシーンなどを盛り込んだ作品の受賞傾向がみられます。ライトノベルっぽいというか。

「松本清張賞」はエンターテインメント全般を対象とする賞ですが、近年は歴史物にシフトしています。業界で生き残っているのも、歴史物の作家ばかり。この賞の場合、歴史上の有名な人物を扱っても受賞していません。それは選考委員が歴史物専門の作家ではないためです。

？ 朝日時代小説大賞

AかBかCかは、まだスタートしたばかりなので、何とも言えない。しかし、時代劇の新人賞では最も時代考証に厳しいので、よほど時代考証に自信がなければ、狙っても予選でハネねられる。



B 歴史群像大賞

あまり大賞が出ないが、優秀賞や佳作でもM文庫で刊行してもらえるので、そういう点では面倒見が良い新人賞。時代劇の新人賞では、ライトノベルっぽい。時代考証よりも、時代劇としての迫力にウエートが置かれている。



？ 女による女のためのR-18文学賞

過去の受賞者では宮木あや子だけが突出して上手く、宮木作品のような応募作が書ければAだが、そうでなければC。宮木以外は感性に頼った受賞作ばかりで、短編賞だけに感性だけでは長続きしないのが原因。



？ 日本ファンタジーノベル大賞

AとCの真っ二つに割れると言っても良い。感性で取るか、知識(情報量)で取るかで、受賞後の運命が大きく分かれる。綿密に取材したり、細かい史料に当たって研究したりするタイプの受賞者にとってはA。感性タイプにはC。



B 日本ミステリー文学大賞新人賞

「ミステリーなら何でもあり」だが、概してハードボイルド系の受賞作に秀作がある。トリックや謎解きにはそれほどの自信がないが、硬派のキャラクターで勝負したい人にとっては狙い目の賞。



A 『このミステリーがすごい！』大賞

最終5本に残れば、ほぼ確実に刊行してもらえるので、実質倍率は百倍前後と、低い。しかし、受賞に「前例のない新奇なアイデア」を求めてくる点では最右翼。奇抜なくらいアイデアの捻りが必要。



B 横溝正史ミステリ大賞

選考委員が交替すると、受賞傾向が大きく変わるので要注意。つまり、歴代の受賞作を通して見ると一貫性に欠ける。「ミステリーなら何でもあり」で、斬新なアイデアを求めてくるが、それはトリックでなくとも構わない。



C 創元SF短編賞

現在、SFジャンルは全く売れていないので、選考する側も基準が極めて厳しい。「前例のないアイデア」を出さなければ賞には届かないし、たとえ受賞できても、専門のプロ作家の道は開けない。





「日本ミステリー文学大賞新人賞」はハ
 ——本格推理でなくともいい賞は？
 「江戸川乱歩賞」なら社会派ミステリーで、しかも現実にありそうな斬新なトリックが求められます。「鮎川哲也賞」はトリックの斬新さ第一で、現実に起こり得るかどうかは重要視されない。マニアックさが必要なため、かなり器用な人しか応募せず、そのため倍率は低いのに、受賞後の生存率は高い。

——ミステリーの賞でも違いがあるもの
 そうですね。
 ——「江戸川乱歩賞」なら社会派ミステリーで、しかも現実にありそうな斬新なトリックが求められます。「鮎川哲也賞」はトリックの斬新さ第一で、現実に起こり得るかどうかは重要視されない。マニアックさが必要なため、かなり器用な人しか応募せず、そのため倍率は低いのに、受賞後の生存率は高い。

——「傾向」ってあるものなんですね。
 本日はありがとうございました。

<p>B 小説推理新人賞</p> <p>「ミステリーズ！新人賞」と、ほぼ同じだが、僅かにレベルが落ちる。しかし、個々の受賞作を見れば「誤差の範囲」に留まるので、これを狙う人は、「ミステリーズ！新人賞」と両方を狙うべし。</p> <p>若桜木慶 評 傾向と対策</p>	<p>B 江戸川乱歩賞</p> <p>最も有名な新人賞と言えるが、最近、受賞作のレベルが急落している。これは「社会派ミステリー」であって、同時に「目新しいトリック」を求めないので、なかなか応募者が対応しきれないのが原因だろう。</p> <p>若桜木慶 評 傾向と対策</p>	<p>? アガサ・クリステイ賞</p> <p>始まったばかりの賞なのでABCの判定は無理だが、早川書房という版元の特徴から見て、よほど凝った「前例のないトリック」を捻り出さないと大賞に届かないだろう。また、そういうトリック・メーカーの作家にはコアなファンがつくので、将来的にAかBになる可能性は高い。</p> <p>若桜木慶 評 傾向と対策</p>	<p>B ミステリーズ！新人賞</p> <p>前例のないトリックと、登場人物のキャラクターの両方の要素が求められる。短編賞だが、書き下ろしや雑誌掲載を併せて単行本化してもらるので、両要素に自信がある人にはお勧め。</p> <p>若桜木慶 評 傾向と対策</p>
<p>A/B 日本ホラー小説大賞</p> <p>AとBの中間。ホラーといっても、ただ単純に怖がらせるような作品はNGで、怖くないほのぼの系か、怖くても、読んだら泣けるような心を打つ作品が求められる。そういう作品での受賞者は文壇での息が長く、ただ一発アイデアで怖さだけを追求したような作品での受賞者は、長続きせずに文壇から消えている。</p> <p>若桜木慶 評 傾向と対策</p>	<p>C 「幽」怪談文学賞(長編)</p> <p>Cだが、それは版元が弱体だからで、応募作のレベルは高い。受賞後に、別のビッグ・タイトル新人賞を受賞する書き手が多いことでも、そういう傾向が窺われる。ホラー・ファンタジー的な路線で、ホラー小説大賞と似ている。</p> <p>若桜木慶 評 傾向と対策</p>	<p>A/B 島田荘司選ばらのまち福山ミステリー文学新人賞</p> <p>歴史が浅いが、おそらくAとBの中間に落ち着くだろう。島田荘司の単独選考なので、鮎川哲也賞と同じく、前例のない新奇で大掛かりなトリックの創案が求められる。</p> <p>若桜木慶 評 傾向と対策</p>	<p>A 鮎川哲也賞</p> <p>最も受賞者の生存率が高い点では、「このミステリーがすごい！」大賞」と双壁。とにかく、徹底して「新奇の本格トリック」を求め。現実にはほとんどあり得ない不可能トリックほど受賞しやすい。そういう作品にはコアなファンがつくので、自ずと生存率が高く、候補に留まったのに活躍しているプロ作家が多いのも、そういう理由による。</p> <p>若桜木慶 評 傾向と対策</p>

文学賞に通じた文芸ライターの独断 純文学系新人文学賞 傾向と対策

各賞の差はなくなりつつある

——純文学系の新人賞の違いや特徴についてお聞きしたいと思います。

全体的に差異がなくなり均質化しているような印象があります。しいて違いを言えば文藝賞とすばる文学賞が話題性を重視していることでしょうか。

——文藝賞の受賞者は若いですね。

文藝賞はこれまで女子中学生や女子高生、同性愛者といった際立った特徴のある人たちが受賞しています。年齢的にはことさらに若い人が受賞するという傾向があります。

年齢が若いということで期待されているのは「伸びしろ」があるということなのです。美人女子高生ということでデビューして、その後、力をつけた綿矢りさのようなヒョウタンからコマのようなケースもあります。

——新潮新人賞、群像新人文学賞、文学界新人賞はどうでしょう。

新潮新人賞はここ数年、該当作なしということがあるようですが、そこに「小

説の新潮社」の矜持を感じます。いい作品がないのならば、無理してまで受賞作を出すことはないのですから。

数年前に雑誌をリニューアルした「群像」は、他の賞と比べて青春文学という傾向が強い印象があります。かつて村上龍、村上春樹を発掘した「夢」をもう一度ということでしょうか。

文学界新人賞は伝統のある賞なのですが、文芸5誌の中では若干特色のある賞と言えます。規定枚数が比較的短い100枚、年2回開催ということも大きな特徴で、受賞作はバラエティーに富ん

独断による純文学系新人賞の差異

	話題性	育成力	芥川賞度	出版化
新潮新人賞	B	A	A	B
文学界新人賞	B	B	A	C
文藝賞	A	B	B	A
群像新人文学賞	B	A	B	B
すばる文学賞	A	B	B	A

A=優 B=良 C=並

でいると聞いていいと思います。

今回芥川賞を受賞した円城塔は文学界新人賞出身で、デビューのきっかけとなった受賞作は「オブ・ザ・ベースボール」、モブ・ノリオが文学界新人賞と芥川賞をW受賞したのは「介護入門」。両作品とも他の文芸誌だったら受賞することは難しかったかもしれません。

受賞後に一番お徳な賞は？

——作家を「育てる」力はどう違うと思いますか。

新潮社は新人の育成に力を入れているほうだと思います。「小説の新潮社」と言われるだけあって、見識のある編集者が多いということなのでしょう。ただそのことが結果的にプレッシャーになって新人が育たないというケースもあるかもしれません。

集英社がかつて「作家が育たない、居つかない集英社」と言われていたことがあるのですが、その「伝統」が今でもあるように思われます。

河出は受賞した新人を育成していくだけの編集者の余裕が杜内的にないといってしまうのは失礼になるでしょうか。だから話題性のある、しかも営業的に即戦力になるような新人を選んでしまうところがあると考えることもできます。

「群像」は昔は面倒見が良かったけれど、

編集余録

「北村薫の創作表現講義」という本の中で、「群像」編集長 唐木厚氏は以下のように語っています。

「群像」は、そんなに色は極端じゃないのですけれども、例えば「文藝」という綿矢りささんを出したところというのは、やはり非常に若い女性を受賞者に選んでいるという印象が、外から見てありますね。「新潮」さんは、割合と男性的な感じがしますね。内にもるタイプの男性的な受賞者が多いなという印象があります。「すばる」も女性が強いなという印象があります。「小説すばる」という雑誌の新人賞も、村山由佳さんとか、女性作家を多く出していますので、やはり集英社さんも女性が強いなという感じがしますね。「文学界」はそんなに色がないのですけれども、「文学界」新人賞の最大のメリットは、芥川賞を主催している会社なので、芥川賞に近いということですね。

(北村薫「北村薫の創作表現講義」)

一般に先行誌は総合的、保守的で、後発誌は逃戦的になります。先行誌と同じことをしては勝てませんので、何か違った編集方針を打ち出します。文芸誌の場合も同じです。

では、「新潮」「文学界」「文藝」「群像」「すばる」の5大文芸誌を古い順に並べると……もっとも古いのは明治37年創刊の「新潮」。次の「文学界」は昭和8年、小林秀雄らを編集同人とし

今はどうでしょう。おそらく、そんなに悪くないはず。「文学界」は良いほうではないかもしれませんが。文春でもエントメ系のほうは良いということも聞いたことがあります。いずれにしても担当、編集によってかなり違います。

——**ずばり、受賞後に一番お徳な賞はどれでしょう?**

いろいろな見方ができると思いますが、単行本を出してくれるすばる文学賞と文藝賞はお得かもしれません。新潮新人賞、群像新人文学賞は受賞しただけでは本にしてくれません。文学界新人賞の場合は規定枚数が100枚程度で、これだけでは本にすることはできません。つまり、同じレベルの作品を3、4本書く必要があるということです。

新人賞を一つのステップだと考えると芥川賞にどれだけ近づくことができるかが重要になると言えます。ここ十数年の傾向を見ると新潮社と文春が受賞作をキャッチボールしているような印象があります。

事前取材を怠らないこと

——**応募にあたってやっておくべきことはなんですか。**

まず自分が応募する賞を決めてしまう。そしてここ数年の受賞作を読んでもみる。ということは、最低限やっておくべきでし

よう。たまたま規定枚数が合っていたからとか、締切日が近かったというだけで応募しないということです。

気をつけなければいけないのは、受賞傾向を分析しすぎて、いかにも「おたくの賞向けに書きました」というような作品や過去の受賞作の模倣のような作品を書いてしまうことです。「蛇にピアス」

が受賞したから今度はタトゥーにしましたというのではだめだと思えます。しかし、過去の作品からも離れているが、賞の趣旨からも離れているというのでもダメなので、その判断はけっこう難しいかもしれません。

——**執筆の際に必要なことはなんですか。**

事前の調査と取材だと思えます。新人賞に応募するつもりだという原稿を読まされるのがよくあるのですが、読むと学校の先生ならば学校の話、サラリーマンなら会社の話、学生なら大学の話、主婦なら家庭の話が書いてあります。プロの作家は小説を書くために一生懸命事前の資料の調査や取材をやっている、それなのに素人は事前の準備をなにもしない。ただだ思いつきだけで書いてしまっているのかおかしいでしょ(笑)。

自分が知っているつもり身近な題材の話でも、少し詳しく調べてみると意外に知らなかったことがあるのに気がつくはずなのです。

3・11後をどう描くか

——**どこかに「新しさ」を感じる作品が求められているのですか。**

「新しさ」には二つあると思えます。一つは題材の新しさで、もう一つは表現としての新しさということになります。新人賞で求められているのは新しい世界観、新しい人間観、新しい小説観ではないでしょうか。

——**テーマの選び方も重要ですよ。**

文芸批評家の桂秀実さんがかつて「今はエンターテインメント系の作家のほうが重たいテーマを扱った小説を書いていく」と言っていたことがあります。ここ最近の純文学系の新人賞の受賞作を読んでもみると当たり前の日常をちよつと変わった視点から描いたような作品ばかりがやたらと目につきます。そうするとそもそも純文学ってなんなのかと思ってしまうのです。

個人的にはこれからどうしても書いてもらいたいのは3・11以降の福島原発事故の事態なのです。この事態を経験した日本の状況をなんらかのかたちで描いた作品を書いてもらいたいと思っています。第二次世界大戦を経験して「戦後文学」というものがあるのだとしたら、「ポスト・フクシマ文学」というのが当然あるべきではないでしょうか。

て文化公論社から創刊、翌年には文壇堂が版元になり、昭和11年、文藝春秋に引き継がれます。

「文藝」はもとは改造社の雑誌で、昭和19年、河出書房が買い取りますが、会社倒産により一時休刊、その後、季刊になって現在に至ります。「群像」は終戦直後の昭和21年創刊。それからかなり遅れ、昭和45年、「すばる」が創刊されます。

これを先行誌・後発誌の法則にあてはめてみると、「新潮」と「文学界」は伝統を守り、でんと構えている感じ。「群像」も同様ですが、「文藝」「すばる」は様々な事情から話題性という一発を狙っている感があります。後発といつても一番遅い「すばる」です。創刊40年以上ですから、先行誌・後発誌という意識もなくなっているのかもしれないが。

しかし、どの雑誌もまったく同じ編集方針で、求めているものもまったく同じというほうが変ですから、母体となる文芸誌と過去の受賞作、選考委員の作品は読んで分析しておいたほうがいいです。敵を攻めるのになんの情報もないのでは不利ですから。

公募というのは、なんの説明もされないまま提出する企画提案に近いのですが、主催者による説明が応募要項しかなないのであれば、自分で分析し、戦略を立てるしかありません。

ただ、一方で、計算だけでは人の胸は打たないということもありますから、書く段になったら、分析や戦略は忘れ、書きたいことを書く。矛盾するようですが、受賞するためにはこの二つが必要という気はします。

公募文学賞の歴史

明治・大正・昭和・平成

本邦初の受賞者は「高山樗牛」

明治26年、読売新聞社は「歴史小説歴史脚本」を募集。これは最古の懸賞小説と言われています。

同賞は翌27年、2席入選に「瀧口入道」を選びます。受賞者は「無名氏」なる東京帝国大学哲学科の学生、高山林次郎（のちの高山樗牛）で、2等の賞品は金時計でした。

明治30年には、「万朝報」懸賞小説が公募されています。こちらは文学賞というより紙上投稿と言ったほうがよい規模。賞金は10円（のちに20円）で、週1回募集、大正13年まで実施されています。受賞者を見ると、永井荷風、国木田独步、菊池寛、浜田広介、横光利一、宇野千代らの名前があります。

大倉桃郎と田村俊子

明治37年、大倉桃郎は「大阪朝日創刊25周年記念懸賞長編小説」（1等300円）に家族小説を書く、作品を友人に

託して日露戦争のため出征します。

その小説「琵琶歌」は1等に入選しますが、本名が書かれておらず、大阪朝日新聞は匿名のまま掲載するとともに紙上で呼びかけました。しかし、桃郎は旅順を攻める包囲軍にあり、また原稿を託した友人は他紙の購読者で、桃郎が受賞を知ったのは数カ月もあとでした。

大阪朝日新聞は明治43年にも「大朝1万号記念文芸」（1等1000円）を公募し、受賞作として田村俊子「あきらめ」を選出します。

俊子は、生活苦から夫の松魚と喧嘩の絶えない毎日を通しており、受賞作は夫に尻をたたかれ、締切間にやっと応募したものでしたが、当選の知らせが来たのは、皮肉にも別れ話がまとまって家を出ようとしたところだったそうです。

戦前の文学賞の状況

大正14年、文藝春秋は「文藝春秋」懸賞小説を募集し、山本周五郎「須磨寺附近」を選んでいました。

昭和3年、改造社は「改造」創刊10周

年を記念して「改造」懸賞創作を募集（第3回受賞者に芹沢光治良）。中央公論社（現中央公論新社）は「中央公論原稿募集」を実施しています（昭和8年10月／歴代の受賞者に島木健作、丹羽文雄がいます）。

毎日新聞と朝日新聞

「サンデー毎日」（大阪毎日新聞社）は創刊10周年などの節目に何度か懸賞募集をしており、最初は昭和7年、「創刊10周年記念長編大衆文芸」（受賞者に海音寺潮五郎）を、昭和12年には「創刊15周年記念長編」を募集。

続いて昭和26年、当時としては破格の賞金を掲げ、「創刊30周年記念100万円懸賞小説」を公募。現代小説1席で新田次郎、同2席で南条範夫、歴史小説2席で永井路子が発掘します。

大阪朝日新聞は、明治期には前出の2賞を、大正期には大正5年「大朝懸賞文芸」、大正8年「大朝創刊40周年記念文芸」（受賞者は吉屋信子）、大正15年には「大朝短編小説」を創設。石川達三と平林たい子を発掘します。昭和になってからは、昭和8年の「大阪朝日長編現代小説」（受賞作は横山美智子「緑の地平線」）、昭和13年には「東京朝日創刊50周年記念懸賞小説」（受賞作は大田洋子「桜の国」）を実施しています。

公募文学賞 創設年表

- 明治26年 歴史小説歴史脚本
- 明治30年 「万朝報」懸賞小説
- 明治37年 大阪朝日創刊25周年記念懸賞長編小説
- 明治43年 大朝1万号記念文芸
- 大正9年 「新青年」懸賞探偵小説
- 大正14年 「文藝春秋」懸賞小説
- 大正15年 「サンデー毎日」大衆文芸
- 昭和3年 「改造」懸賞創作
- 昭和7年 「サンデー毎日」創刊10周年記念長編大衆文芸
- 昭和8年 大阪朝日長編現代小説
- 昭和12年 「サンデー毎日」創刊15周年記念長編
- 昭和13年 東京朝日創刊50周年記念懸賞小説
- 昭和21年 夏目漱石賞（桜菊書院）
- 昭和24年 新潮社文学賞
- 昭和26年 「サンデー毎日」創刊30周年記念100万円懸賞小説／講談倶楽部賞
- 昭和27年 オール読物新人賞
- 昭和29年 文藝界新人賞（文藝春秋）／学生小説コンクール（河出書房）／同人雑誌賞（新潮社）／江戸川乱歩賞
- 昭和30年 大衆文芸30周年記念100万円懸賞
- 昭和31年 中央公論新人賞
- 昭和33年 群像新人文学賞／女流新人賞
- 昭和36年 文藝賞／ハヤカワSFコンテスト

昭和38年には、「朝日新聞1000万円懸賞小説」を募集。三浦綾子の出世作「氷点」を世に送り出します。同作はタイトルをもじった番組「笑点」が生まれるほどの話題作でした。

純文学系文学賞創設ラッシュ

戦後は新人文学賞の創設が続きます。昭和29年に創設、翌年受賞作が発表された「文学界新人賞」は石原慎太郎を擁し、「太陽族」という流行語まで生まれました。昭和31年には「中央公論新人賞」がスタート。第1回受賞作に深沢七郎の「楢山節考」を見出します。

ほか、純文学系の新人賞を見てみると、昭和33年「群像新人文学賞」、昭和36年「文藝賞」、昭和40年「太宰治賞」、昭和43年「新潮新人賞」（昭和29年創設の「同人雑誌賞」の後継公募）とおおむね昭和30年代に生まれています。

これに比べると、昭和52年創設の「すばる文学賞」（第1回受賞者は森瑤子）は後発。また、今はなき「野性時代新人文学賞」（昭和49〜59年）と「海燕新人文学賞」（昭和57年〜平成8年）はさらに後発組でした。

一方、純文学の衰退を受け、昭和38年「小説現代新人賞」、昭和47年「小説新潮新人賞」、昭和62年「小説すばる新人賞」など、中間小説誌系エンターテインメン

ト文学賞が創設されます。

賞金1000万円時代

昭和後期に活況となった公募といえば、その筆頭は推理小説。推理小説公募は戦前からあり、古くは江戸川乱歩をデビューさせた探偵雑誌『新青年』の「懸賞探偵小説」（大正9年／博文館）や、探偵雑誌『宝石』懸賞小説（昭和21年／岩谷書店）のちの宝石社）があります。

「宝石」は、昭和24年にも「中篇コンテンツ」100万円コンテストを実施し、昭和26年には「宝石賞」を創設（昭和38年で終了）。同社主催公募の受賞者を見ると、山田風太郎、島田一男、鮎川哲也など錚々たる面々がいます。なお、この「宝石」は現在の「宝石」（光文社）とは内容的にも全く別ものです。

これら推理小説公募の中で出色の存在と言えば、「幻影城新人賞」（昭和50〜53年／幻影城）。探偵小説雑誌「幻影城」からは栗本薫、泡坂妻夫、連城三紀彦らがデビューしています。

昭和も後期になると、推理小説は高額賞金時代を迎えます。「2千万円テレビ懸賞小説」（昭和49年／NETテレビ）現テレビ朝日）や「創業50周年記念1000万円懸賞」（昭和51年／集英社）、「総額2000万円懸賞小説募集」（昭和56年／徳間書店）などがそうです。

宮部みゆき、高村薫を生んだ、日本テレビ「日本推理サスペンス大賞」（昭和63年〜平成6年）、フジテレビ「FNSミステリー大賞」（昭和63年）、朝日放送「時代小説大賞」（平成2〜11年）も賞金は1000万円。また、高額賞金ブームの影響か、「横溝正史賞」と「サントリミステリー大賞」も途中から賞金を1000万円に増額しています。

平成の文学賞

平成の文学賞を特徴づけるのは、自身体文学とライトノベル。

まず、平成元年に市制100周年を記念して「坊っちゃん文学賞」（松山市）と「自由都市文学賞」（堺市）が始まり、これを皮切りに、わずか5〜6年のうちに20件近い賞が創設されるなど自治体文学賞創設ラッシュ期を迎えました。

ライトノベルは、昭和の時代は「小説ジュニア」（のちの「コバルト」）を中心とした女子中高生の小説でしたが、その後、スニーカー文庫、富士見ファンタジア文庫が男子中高生にも人気となり、年齢層も三十代まで広がっています。

公募の世界では、昭和63年「ファンタジア長編小説大賞」、平成6年「電撃小説大賞」、平成7年には「スニーカー大賞」がスタート。現在では20以上の賞がしのぎを削っています。

昭和37年 オール読者推理小説新人賞
昭和38年 小説現代新人賞／朝日新聞1000万円懸賞小説
昭和40年 太宰治賞／マドモアゼル女流短編新人賞（小学館）
双葉推理賞
昭和41年 新潮新人賞／小説ジュニア青春新人小説賞
昭和43年 新潮新人賞／小説ジュニア青春新人小説賞
昭和47年 小説新潮新人賞
昭和49年 野性時代新人文学賞／角川小説賞／NETテレビ2千万円テレビ懸賞小説
昭和50年 幻影城新人賞（幻影城）／問題小説新人賞（徳間書店）
昭和51年 歴史文学賞／創業50周年記念1000万円懸賞
昭和52年 すばる文学賞／小説CLUB新人賞／奇想天外SF新人賞
昭和53年 群像新人長編小説賞／光文社インタイメント小説大賞／「小説推理」新人賞
昭和54年 星新一ショートショート・コンテンツ／ニッポン放送青春文芸賞
昭和55年 横溝正史賞
昭和56年 徳間書店総額2000万円懸賞小説募集／サントリミステリー大賞
昭和57年 海燕新人文学賞／潮賞
昭和58年 サンリオ・ロマンス賞
昭和62年 小説すばる新人賞
昭和63年 日本推理サスペンス大賞／FNSミステリー大賞／ハレットノベル大賞／ウィングス小説大賞／フェミナ賞
平成元年 坊っちゃん文学賞／自由都市文学賞／日本ファンタジーノベル大賞／朝日新人文学賞